

農業委員会の活動事例（長野県伊那市）

～地域一体となった遊休農地再生への取組～

農業委員数	34名
耕地面積	5,944ha
遊休農地面積	59ha

【地域の概要】

伊那市は二つのアルプスに囲まれ、そこから湧き出す清流と新鮮な空気により育まれた、安心安全でおいしい農作物ができる農業環境に恵まれ、稲作を中心とし、野菜、果樹、花卉、畜産、きのこ栽培などを取り入れた複合的な農業が展開されている。

総農家戸数のうち、第1種兼業農家が12%、第2種兼業農家が70%と兼業農家の占める割合が高くなっている。

○平成24年度 遊休農地率：1.0% 遊休農地解消面積：32ha

○地域一体となった大規模な遊休農地再生への取り組み

耕作放棄地解消面積：16ha 取組時期：平成22年～

田原集落農業振興センター（伊那市農業振興センターの地域組織）が実施した、遊休農地の再生化事業に地元農業委員が実施主体の構成員として深く関わり、農地集積円滑化団体（JA上伊那）を經由し、農事組合法人田原（田原地区の集落営農組織）へ対象農地（16ha、約250筆）の利用件設定（無償、10年間）を一括して行い、営農を行うこととした。

この結果、平成24年度における伊那市全体の遊休農地解消面積の半分にあたる16ha（導入作物：小麦、白ネギ）を解消することとなった。

また、平成25年度より、既存の果樹園と隣接した遊休農地（1.5ha）を一つにまとめ、農作業体験ができる農園を目指してあらたな行動を開始した。

再生作業前



再生作業後

